

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

プラスチック製容器包装のあるべき再商品化に向けて

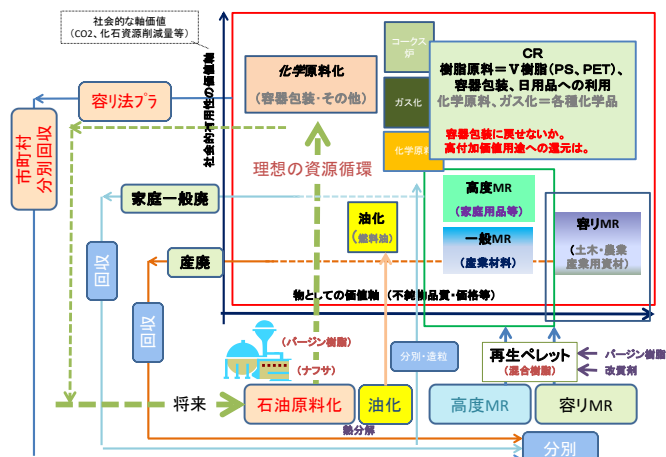
2013 年秋から 2 度目の容器包装リサイクル法（以下、容リ法）の見直し審議が行われてい
ます。これまで様々な論点が示されましたが、なかでもプラスチック製容器包装（以下、プラ容器
包装）の再商品化が、大きな論点になっています。

当協議会は、プラ容器包装の特定事業者で構成する団体として、プラ容器包装のあるべき再商
品化について、欧州・韓国など諸外国の視察調査をはじめ、様々な資料や報告などを基に、内部
の委員会やWGなどで 40 回を超える議論を重ね、①プラスチック素材の特性を踏まえた仕組み
づくり、②材料リサイクル（以下、MR）優先に変わる新たな入札方式の導入と再商品化手法の
新たな価値評価、③MRの改善のための諸施策の実施、④実務者による専門的な視点からの施策
の検討などを法見直し審議会で提言し、2014 年 8 月には 12 項目のパブリックコメントとして国
に提出しました。

<MR の高度化に向け、専門家を交えて課題等を検討>

さらに 2014 年 10 月には、MR の改善・高度化のために、容リプラ再生材懇談会を設け、新た
なりサイクル・サプライチェーンの構築を通して付加価値、経済価値のある再商品化のために、
再生材の品質評価と改善や、プラ容器包装
由来のリサイクル材料の品質高度化の可能
性などを、専門家を交えて、プラ容器包装の
リサイクルの資源循環ビジネス化を目指し
て、検討しています。

また、ケミカルリサイクル（以下、CR）
についても、CR 研究会を設けて、あるべき
方向を検討しています。



プラスチック容器包装の再商品化価値評価（案）

<国に提出したパブリックコメント>

- 1・リデュースの推進について
- 2・分別排出に関する市民への啓発について
- 3・市町村と特定事業者の役割分担・費用分担等について
- 4・プラ容器包装の分別収集・選別保管のあり方（再商品化との一体化）
- 5・市町村費用を事業者が負担するとモラルハザードの発生等が懸念される。
- 6・プラ容器包装の再商品化：価値評価軸の策定と入札方式の転換
- 7・プラの素材特性に基づく手法の評価とエネルギー資源としての並行活用
- 8・合理化拠出金制度について
- 9・再生材需要の拡大策について
- 10・容器包装の収集に必要な指定ごみ袋の資源としての取扱い
- 11・非容リプラ製品（製品プラスチック）の取扱いについて
- 12・指定法人の在り方

2013 年秋から 2 度目の容器包装リサイクル法の見直し審議が行われています。今回の法見直しの論点に、容器包装のリデュース・環境配慮設計があります。これを事業者の自主的な取組みで推進し、3R 推進の実効を上げることが、事業者の責務と考えております。

プラ容器包装は、中身製品の保護・品質維持など容器本来の機能を果たすために、複数の材質の組合せの複合材質など多様な材料が使われており、製法や形状も多岐に亘り、用途も食品包装をはじめ石鹸洗剤、化粧品、医薬品など広い分野に使われていることから、そのリデュース・環境配慮設計は、中身製品や容器包装を熟知している事業者が、責任をもって進めて行くことが、重要、かつ効果的であると考えられます。

当協議会では、第 1 次、第 2 次自主行動計画を通してリデュースやリサイクルを推進してきましたが、2015 年度は、事業者の自主的取組みを推進のための【プラスチック製容器包装の環境配慮設計指針】を策定しました。

「知りたかった!! プラスチック容器包装」を作成し、好評を頂いています

広報用パンフレットとして、2014 年秋にプラスチック製容器包装をわかり易く解説した小冊子【知りたかった!!プラスチック容器包装】を、広報・啓発専門委員会を中心に、3R 推進専門委員会や技術・情報専門委員会等とも連携して 10,000 部作成し、会員各位、関係省庁、学識者、市民・消費者、行政・自治体などに配付しました。

この小冊子は、プラスチック製容器包装とは何かを様々な角度からわかり易く説明したパンフレットで、市民・自治体と事業者の意見交換会などで活用し、ご出席された方々から、ご好評を頂いております。

なお、このパンフレットは、当協議会の HP に掲載しておりますので、ご覧下さい。

http://www.pprc.gr.jp/about/images/pamph_20141218.pdf



■活動報告書「プラねっと」PPRC ACTIVITY REPORT 2015 を発行

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会（略称：PPRC）の主な活動と会員団体・企業が取り組んだ年間の活動を、会員各位をはじめ関係者の皆様にご報告する、新しい活動報告書【プラねっと：PPRC ACTIVITY REPORT 2015】を、2015 年 12 月に発行します。

PPRC ACTIVITY REPORT 2015 は、2014 年から 2015 年上期までの主な活動と会員団体・企業が取り組んだ環境に配慮した 3R 改善事例を紹介します。



■市民・自治体と事業者との意見交換会を全国 11 都市で開催

当協議会では、市民・消費者や行政・自治体の方々など各主体との相互理解の深化と連携に向け、PET ボトルリサイクル推進協議会との共催で、2012 年度から「市民・自治体と事業者との意見交換会」を、全国 11 都市で開催してきました。

2015 年度は、旭川市、福山市で開催し、これまでにご参加頂いた方々は合計で 604 名でした。このうち市民・消費者の方は 197 名、行政・自治体の方は 161 名で、事業者は 246 名でした。

各地の意見交換会では、市民や自治体の方々から、日ごろ感じている意見、要望、疑問などを率直にコメント頂きました。こうした様々なご意見などに対して、参加した事業者からも丁寧に、また率直に意見を述べ、相互に信頼を深める事が出来たと実感しています。

これまでの市民・自治体と事業者の意見交換会の参加者総数

年 度	市 民	行政・自治体	事業者	合 計
2012	4 6	2 5	6 9	1 4 0
2013	6 4	5 4	7 3	1 9 1
2014	5 4	5 0	5 5	1 5 9
2015	3 3	3 2	4 9	1 1 4
合 計	1 9 7	1 6 1	2 4 6	6 0 4

意見交換の詳細は、当協議会 HP をご覧ください。

<http://www.pprc.gr.jp/activity/report/report20140717.html>



2015 年 6 月 市民・自治体と事業者の意見交換会 in あさひかわ

3R 推進セミナーを開催 2014, 2015 年とも年 3 回

2012 年度から、会員各位への情報提供として、年間 3 回の予定で、3R 推進セミナーを開催し、多くの会員や関係者の方々にご参加いただきました。

2014 年度は、7 月、12 月、3 月の 3 回開催し、2015 年度も、8 月 20 日に第 1 回 3R 推進セミナーを東京・北区の北とぴあで開催し、約 70 名の方にご参加頂きました。

今後も、このセミナーを通して、会員各位をはじめ関係者の方々に様々な情報提供をはかり 3R の推進に一段取り組んでまいります。



2015 年度 第 1 回 3R 推進セミナー

ホームページを全面リニューアルしました

当協議会のホームページは、一般公開してから 13 年経過し、使い良さ、読みやすさ、運用コストなどの面から見直しが必要でしたので、2014 年 8 月にリニューアルしました。

新しい HP を右記の URL からご覧ください。 <http://www.pprc.gr.jp/>

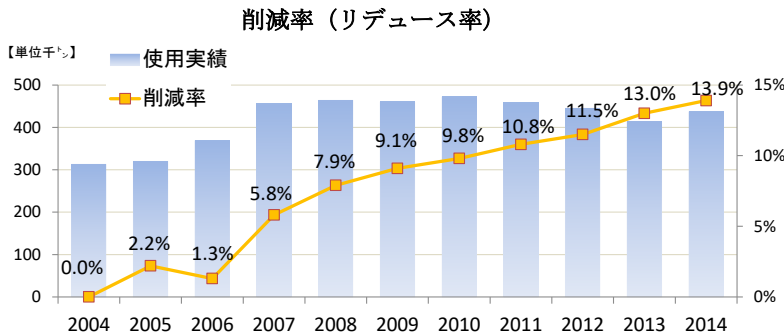
また、会員向け情報提供ツールとして、2013 年から始めたメールニュースは、主に活動予定や報告など会員への情報提供ツールとして発信しています。

■第2次自主行動計画 2014年度の削減率13.9%、再資源化率44.8%

2014年度のプラ容器包装の削減率（リデュース率）は、2006年度からの累計で13.9%、累計削減量が70,310トニになり、2015年度の目標である13%を大きく上回りました。

また、再資源化率（リサイクル率）は44.8%に達し、2015年度の目標の44%を上回る結果となりました。なお、2011年から2014年までに事業者が独自に再資源化した量は、113,667tでした。

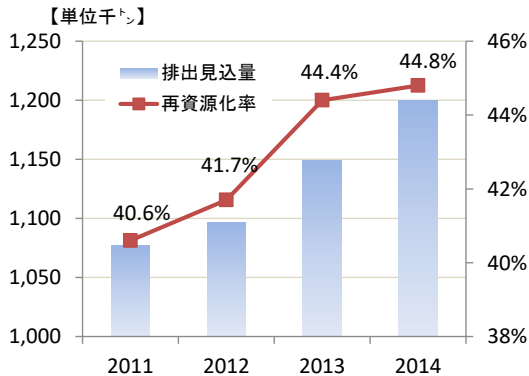
この結果、リデュース率と再資源化率は、いずれも2015年度の目標値を達成する事ができました。会員各位のご協力にあらためて御礼申し上げます。



削減率=プラ容器包装累計削減量*1÷プラ容器包装の当該年度推定使用量*2

※累計削減量*1（分子）：2006年度から当該年度までの累計削減量。

※推定使用量*2（分母）：累計削減量*1+当該年度のプラ容器包装実使用量。



再資源化率=(当該年度の再商品化量*3+当該年度の自主的回収量*4)÷2011年度排出見込量*5

※当該年度の再商品化量*3：(公財)日本容器包装リサイクル協会の当該年度の公表値。

※当該年度の自主的に回収した量*4：特定事業者の当該年度の自主的回収数量

※2011年度排出見込量*5：(公財)日本容器包装リサイクル協会の2011年度の公表値。

2015年の3R改善事例 33社 66アイテム、73事例の応募頂く

当協議会では、3R推進の一環として、2008年度から3R改善事例を募集しており、2015年で8年目になりました。

2015年の改善事例を項目別に分類すると、全体の67%が軽量化・薄肉化などリデュース関連で、なかでも容器包装の薄肉化が47%と全体の約半数でした。

次いで、環境にやさしい容器包装が33%でした。この中には、バイオ素材や再生材の採用などの新たな取り組みを示す事例もありました。

2015年の3R改善事例の詳細は、当協議会のホームページに掲載します。

HP アドレス <http://www.pprc.gr.jp>



3R改善事例の一例